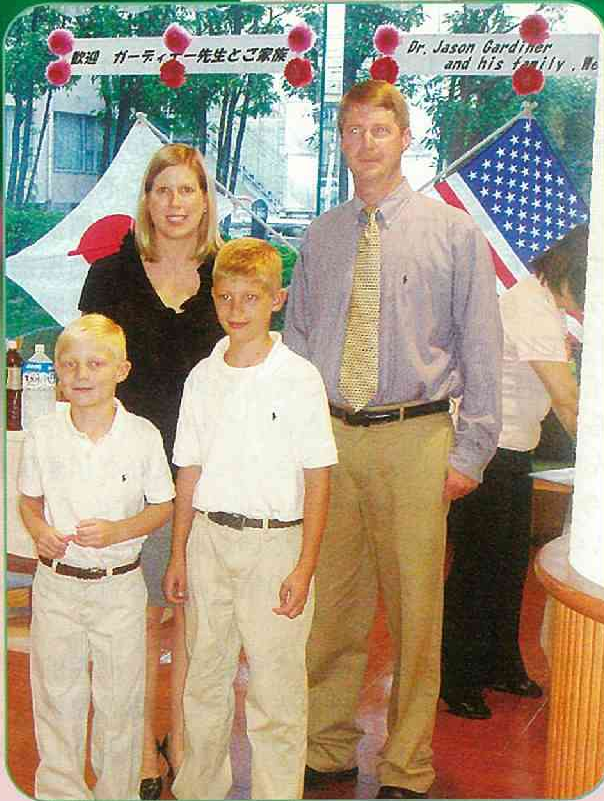


地域医療連携室

# フレンディーだより

Community medicine cooperation room



米国指導医ガーディナー先生歓迎会 (H23.8.29)



2011  
vol.38

H23.10 発行

黒部市民病院 黒部市三日市1108-1

E-mail : friendly@med.kurobe.toyama.jp



# 病院・診療所紹介

## 吉澤内科医院

吉澤医院は大正12年の開院以来、地元の皆様に密着したかかりつけ医としての役割を果たしてこられたのではないかと自負しております。前院長である吉澤潤から今年6月1日に私（吉澤尚）に院長が交代し、名称も吉澤内科医院に変更しましたが、新医院になってからもその役割に変わりはありません。

私は医師になって18年間、循環器内科を専門として大学病院や地域の基幹病院に勤務し、多くの心筋梗塞や狭心症の患者さんを見てきました。そしてそれらの原因の多くは、高血圧や糖尿病、脂質異常症といった生活習慣病でした。今までは循環器内科医として生活習慣病の結果（＝狭心症、心筋梗塞、脳卒中）を治療していることが多かったのですが、これらの疾患によってもたらされる結果（＝後遺症）の重大性を考えると、疾患の予防こそが最も重要であり、かかりつけ医に求められている役割だと考えています。そこで『生活習慣病の予防と治療』を当院の大きな目標としています。さらに、循環器専門医の立場から、循環器疾患の専門的な診断と治療、アドバイスを行うことも目標としており、今後も新たな診断装置を導入して、さらに充実させていきたいと考えています。

また、最近是新薬の開発や治療ガイドラインの整備により、どこでも標準的な治療を受けることができ、以前よりも大きな効果が得られるようになりましたが、そのメリットを最大限に活かすためには、我々の研鑽はもちろんですが、何よりも患者さんとの良好な信頼関係を築くことが一番大切だと考えています。今はまだ診療を始めて半年足らずですので当然、信頼関係を深めるまでには至らず、「言いたいことが言えず、遠慮しているのかな」と感じることも多々ありますが、こればかりは時間がかかる（ある先生には20年は必要と言われました）ことですので、あせらずやっていきたいと思っています。

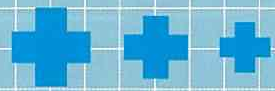
最後になりましたが、当院ではできない検査や専門外の診察につきましては、積極的に開業医の諸先生方ならびにフレンディーを通した黒部市民病院各科の先生方との病診連携により、全人的な医療を患者さんに提供していきたいと考えておりますので、何とぞよろしくお願い申し上げます。

〒938-0031 黒部市三日市3468  
TEL 0765-54-0107  
FAX 0765-54-0976  
診療科 内科、循環器内科、小児科

担当医 内科、循環器内科…吉澤 尚  
内科、小児科……吉澤 潤  
診療時間 午前9時～12時  
午後2時～6時  
休診日 日曜、祝日、木曜と土曜の午後







# 禁煙外来

## のご紹介



理事 兼 呼吸器内科部長 辻 博

疾病には血友病やマルファン症候群などのように内因（特定の遺伝的要因）のみにより発生するものと、外傷のように外因（この場合は力学的エネルギー）のみによるものがあります。しかしながら多くの疾病はいずれか一方の原因によるのではなく、各個体特有の遺伝環境を背景として、これに種々の外因が修飾因子として加わることにより発生します（図1）。

癌を例にとると、その発生にも内因と外因の両者が関与しています。発癌に関与する外因を影響の大きい方から順に並べると、①タバコ、②野菜・果物不足、③塩の過剰摂取、④ウイルス、⑤運動不足、⑥肥満、⑦アルコール、⑧空気汚染、⑨放射線・薬となります。つまり癌は遺伝環境という内因を背景に、これに種々の外因が加わることにより発生してくるわけです。この発癌に関与する多くの外因のなかでもタバコが最も強力な発癌促進因子なのです。ヒトは持って生まれた遺伝環境を自分の力で変えることはできません。しかし発癌因子を避けることにより癌の発生を遅らせることは可能です。

タバコの健康に対する影響を最も端的に示した研究のひとつに英国医師会男性会員を対象にしたものがあります。これは同会男性会員を35歳の時点で喫煙者と非喫煙者に分けて、その寿命を追跡調査したものです。その結果喫煙者は非喫煙者に比べて10年寿命が短いことが示されました（図2）。

このことは喫煙者が自分の人生設計を考える際に参考になるでしょう。つまり残りの寿命から逆算して介護を受ける生活が始まる年齢を予測するとか、年金の受取り期間も短縮するので前倒し制度を利用して少しでも早く受給しておくとか、あるいは今から禁煙してみるとか…。

禁煙外来のご案内をひと言。禁煙外来は禁煙しようかどうか迷っている人が相談に訪れるところではありません。すでに禁煙を決意した人が利用する外来なので、ここではタバコの害を説いたり、禁煙を説得したりすることはありません。直ちに禁煙したい人が対象です。これは保険診療として禁煙治療をおこなう際の

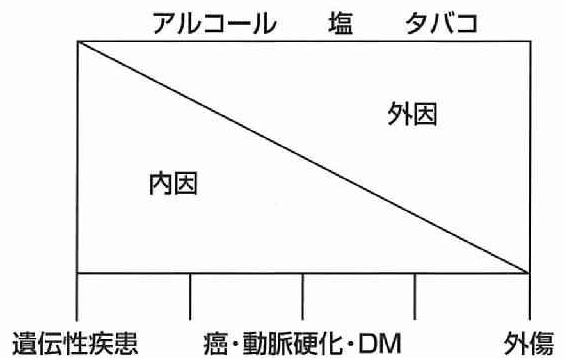


図1. 疾病の発生における内因と外因の関与

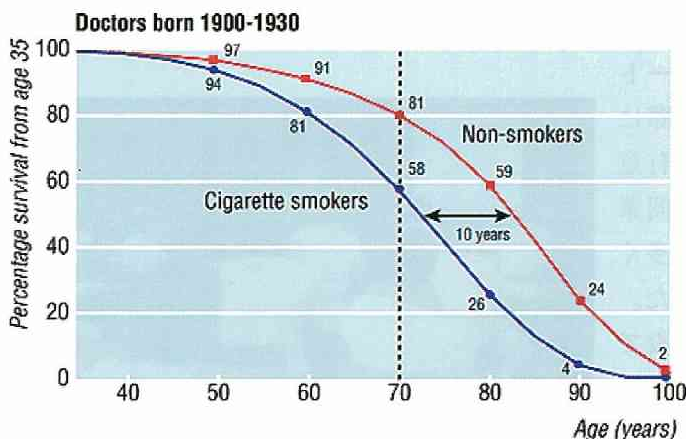


図2. 喫煙による寿命の短縮 (Doll, R. BMJ 2004;328:1519)

手順に縛りがあるためです。さらにニコチン依存であることと、喫煙指数が200以上であることも禁煙治療の要件です。しかし後者は喫煙年数が短い若者をこの治療から排除してしまうという皮肉な状況を招いています。

禁煙治療は予約制で内科外来で受け付けています。まずは電話でお問い合わせください。





# オープンキヤンサーボード について



泌尿器科部長 奥村 昌央

当院は下新川郡の地域がん拠点病院であり、長年キヤンサーボードを立ち上げることを宿願としてきましたが、この度ようやく第1回のキヤンサーボードを開催することができました。

キヤンサーボードとは、手術や放射線治療及び化学療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医師や、その他の専門医師、医療スタッフ等が参集し、がん診療について共有・検討・確認するためのカンファレンスのことをいいます。がん対策基本法に基づくがん対策基本計画では、がん拠点病院が、地域連携の中で「がん診療について様々な角度から検討し、最善の治療法を見いだすためのキヤンサーボード」を開催することが求められています。

開催日は平成23年8月10日で18:30より当院3階指導室で行われました。当日の出席者は42名で院内の医師が19名、院外の先生方が9名出席され、看護師は7名、薬剤師が2名、その他のかた5名が出席され指導室が満員となる盛況ぶりでした。司会は当院外科の桐山先生が務められました。症例は院内から4例集まり、外科から2例、内科から1例、泌尿器科から1例提示されました。外科の1例目は術前化学療法にて手術へコンバージョンできたStage IV胃癌症例で、2例目はS状結腸癌イレウスにて2期的に根治手術を行った緊急手術症例であり、いずれも外科の寺川先生が発表されました。3例目は減黄処置に難渋した膵頭部癌の1例で内科の富田先生が発表されました。4例目は術後急速に進行した腎紡錘細胞癌の1例で泌尿器科の奥村が発表しました。いずれも黒部市内の開業医の先生方から当院へ紹介され治療を受けられた症例であり、それぞれの症例で診断や治療に難渋した点が報告され、病理組織に関しての疑問点などはスライドを使って当院臨床検査の高川先生に解説して頂き、画像検査での疑問点は当院放射線科の荒井先生に説明して頂きました。通常病理組織や画像検査はレポートのみで確認することが多いのですが、実際に説明をして頂くことでより深く理解でき有意義なカンファレンスとなりました。また開業医の先生からも長年の経験にもとづいた多くの意見が出され、活発な討論が行われました。

今後は当院の症例のみでなく、他の施設で難渋している症例を提示して頂き、病院の垣根を取り払ったよりオープンなキヤンサーボードを開催したいと考えております。





## トピックス

### 米国指導医ガーディナー先生による 院内講演会

さる8月31日（水）夕方、28人目の米国指導医として来日されたジェイソン・ガーディナー先生による院内講演会が開催されました。先生は中央ジョージア医療センターで救急医療を担当されていますが、なかでも最も重要なテーマである「敗血症」について講演されました。

2002年に欧州集中治療医学会議等が中心になって始まったSurviving Sepsis Campaign (<http://www.survivingsepsis.org/Pages/default.aspx>) はその後全世界に広がり、現在では三十数カ国から多数の医療施設が参加する大規模な活動になっています。これは敗血症に対して標準化された医療を早期に行うことによって、その死亡率を25%減少させることを目指したものです。中央ジョージア医療センターは当初からこの取り組みに参加しており、これまでに多くの成果を挙げているとのことでした。

講演ではその概要と成果を紹介されました。なかでも治療開始時に血清中の乳酸を測定すること、患者に挿入されている全てのカテーテルとカニューラから培養検体を採取すること、敗血症性ショックの場合にはカテコラミン投与に先立ち0.5から1Lの大量輸液を30分で急速注入し、これで血圧の回復がなければ最高3回までこれを繰り返すことなどのお話が印象的でした。



### 看護師国際交流

当院は2003年に黒部市と姉妹都市関係にある米国ジョージア州マーコン市のマーサー大学医学部ならびに中央ジョージア医療センターとの間で医療分野に関する国際交流の協定を結びました。具体的交流として、2004年から医師の相互交流を始めました。

2007年からは当院から中央ジョージア医療センターに看護師を派遣して米国の医療を体験しています。看護師についても相互に交流することが重要であると考え、2010年からは米国からの看護師の訪問を当院に受け入れるようになりました。

昨年に引き続き今年はメモリー・ガルシアさんとニッサ・ハッタウェイさんのお二人を6月に招請しました。滞在中、院内各部署で看護業務を見てもらいました。また院内講演会を開催して、米国の救急医療や新生児医療について紹介してもらいました。

さらにアフターファイブには院外でも楽しく交流して、相互に理解を深めることができました。



このような看護師による国際交流は、国内では珍しい取り組みですが、当院の魅力として今後とも継続していく予定です。



## お知らせ



### ●9月1日から開放型病床が10床になりました

開放型病床の利用率低迷により、15床⇒10床申請、受理されました。

(8月25日受付 東海北陸厚生局)

### ●8月1日から眼科の医師が1名体制となりました

これまでは、月・水・金曜日は非常勤医1名が診療を行っていましたが、都合により休診しております。常勤医1名体制となっております。

月・水・金曜日については、状況に応じて「予約なし・紹介状なしの患者様」の診療受付を10時30分以前に終了する場合があります。ご了承ください。火・木曜については、これまで通り「予約あり・紹介状ありの患者様」のみ診療を行います。

### ●8月1日から整形外科の医師が1名減員になりました

混み具合によりお待たせすることがあります。あらかじめご了承ください。

初診で受診される患者様は、紹介状の持参をお願いしております。(ただし、緊急を要する場合は、この限りではありません。)

## 講演・勉強会のご案内

### 1. 新川胸部疾患検討会

日時：毎月第2木曜日

午後6：30～

午後8：00

場所：本館3階 指導室

### 2. オープンベッドカンファレンス

日時：偶数月の第2水曜日

午後6：45～

午後7：45

場所：本館3階 指導室

### 3. 内科カンファレンス

日時：毎週火曜日

午後6：40～

場所：本館3階 指導室